

# 未来へ、 豊かな「環境」を届けていくために ヤマトグループの環境問題への取り組み

ヤマトグループは創業以来、輸送・物流関連事業を通じて、社会への貢献を第一にサービス提供や事業展開に努めてまいりました。数多くの車両や公共の道路を利用する事業者であるという自覚のもと、地球環境問題に対しても強い使命感を持ち、多岐にわたる対策を推進してまいりました。

時代も移行し、ヤマトグループの事業も多様な広がりを見せています。しかし事業がどう変遷しても、私たちの環境対策にかける意志と努力は変わりません。今回の特集では、私たちヤマトグループの環境への取り組みに焦点をあてて、ご紹介いたします。



## ヤマトグループ環境保護活動の 基本理念と推進基盤

ヤマトグループは、企業の社会的責任のひとつとして環境保護活動に取り組むことを、「ヤマトグループ環境保護宣言」で明確に打ち出し、基本方針に掲げた重点テーマを軸に、積極的な活動を推進しています。

活動の柱には、「大気汚染・地球温暖化防止」「ゴミの排出量削減」「グリーン購入推進」の3テーマを据えました。それぞれ目標を掲げ、戦略的かつきめ細かい対策を行っています。加えて、社員の意識向上を通じて、地域社会の環境保護活動への積極参加を促すとともに、環境対策情報の正確な開示にも努めています。

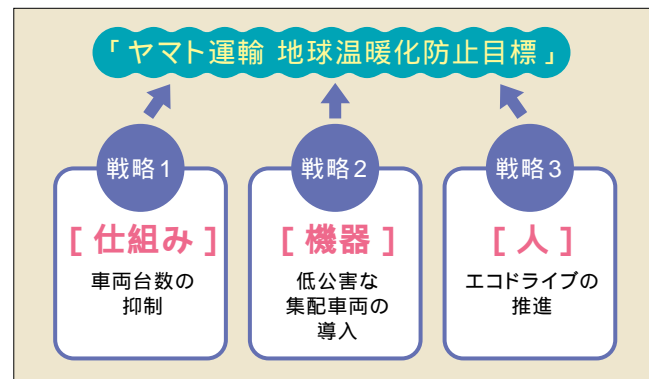


## 大気汚染・地球温暖化防止への 諸施策

ヤマト運輸(株)では、深刻な環境問題としてクローズアップされる地球温暖化の防止を重要課題として高い目標を設定し、戦略的な活動を推進しています。2003年9月には「ヤマト運輸 地球温暖化防止目標」を策定。2012年度に、企業として成長を維持しつつ、CO<sub>2</sub>排出量を2002年度比で99%に抑制し、宅急便1個当たりCO<sub>2</sub>排出量を30%削減する目標を掲げました。この達成へ向けて、車両台数を抑制する「仕組み」、低公害な集配車両という「機器」の導入、「人」が直接携わるエコドライブの推進という3つの側面からアプローチする

戦略的な行動計画を立案しました。

### 「ヤマト運輸 地球温暖化防止目標」と3つの戦略



車両台数の抑制では、燃料を消費する自動車を極力使用しない仕組みを確立してきました。台車や新スリーター(リヤカー付き電動自転車)で集配するサテライトセンターが中心的な役割を担い、出店を増やしています。2007年3月末で全国880店を実現、2012年目標の1,000店を目指し拡大中です。

低公害な集配車両の導入では、2003年度からハイブリッド車を導入の主軸としています。ヤマト仕様のハイブリッド2t集配車を自動車メーカーと共同開発して、既存ディーゼル車からCO<sub>2</sub>排出量を削減、燃費・静粛性を向上させました。通常の貨物自動車(MPバン)への導入に引き続き、2007年1月より、ヤマトの顔である主力車両「ウォークスルー車」にもハイブリッドタイプを導入しました。今後、主力車両であるウォークスルー車をハイブリッドタイプにしていくことで、大幅なCO<sub>2</sub>排出量削減が見込まれます。このほか幹線の中長距離輸送に、エネルギー効率の良い鉄道や海運を積極活用するモータル

シフトも組み合わせ、CO<sub>2</sub>排出量の大幅削減、大気汚染防止、渋滞緩和、コスト削減につなげる方策も進めています。



ウォークスルー・ハイブリッド車を本格導入

エコドライブの推進では、ヤマト運輸(株)全国73カ所の主管支店ですべてのセールスドライバーの受講を目標に、データに基づき具体的なテクニックを身につけるエコドライブ講習会を開催しています。ヤマトグループでは、地球温暖化防止へ向けた国民運動「チーム・マイナス6%」に賛同し、夏季・冬季の省エネ運動を進めるとともにエコドライブを独自の目標として設定し、CO<sub>2</sub>排出量削減に結び付けています。

一連の取り組みの結果、宅急便個数の増加割合に比べてCO<sub>2</sub>排出量は微増にとどめられています。宅急便1個当たりCO<sub>2</sub>排出量は、着実に減少し、2006年度で391gCO<sub>2</sub>(2002年度比13%削減)まで到達しました。

一方、ボックスチャーター(株)で提供するB to B

分野の配送サービス、「JITBOXチャーター便」では、お客様とのコラボレーションによる、新しいエコロジー物流がスタートしています。ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社ビジョンケアカンパニー様では、大手得意先へのコンタクトレンズ配送で発生する梱包資材のゴミが問題になっていました。ボックスチャーターでは、リユース可能な折りたたみタイプの梱包資材を利用した、ボックス単位の配送サービスを提供、お客様のニーズに応えることができました。お届け先で発生する段ボール等の梱包資材の削減に成功し、環境への負荷を大きく低減しています。また、資材の返送時にはコンパクトに折りたたみできる特性による輸送効率の向上など、CO<sub>2</sub>排出量削減にも貢献しています。

### 「キッズニア東京」でエコ・アクティビティを開始

ヤマト運輸(株)がパビリオンを出すキッズニア東京では、2007年3月に「環境の国宣言」を行いました。各パビリオンで「地球温暖化防止」に向けたエコ・アクティビティを実施するというもので、ヤマト運輸(株)も趣旨に賛同し、子どもたちに環境に配慮した輸送を体験してもらうエコ・アクティビティを、2007年6月から開始しました。「台車」で集配することにより、化石燃料を使わないことの意義を伝えています。ヤマトグループでは、子どもたちが、自然なかたちで環境に配慮して行動できるようになればと考えています。

小さくてデリケートなコンタクトレンズ。配達時における従来の梱包を標準化。環境にやさしい物流を実現しました。

Johnson & Johnson株式会社ビジョンケアカンパニー様、多量に発生するコンタクトレンズの梱包から発生する廃棄物の削減を目標とされました。その課題を解決したのが「折りたたみボックス」です。従来の配送方法から、リユース可能な折りたたみボックスを使用した配送方法に変えたことで、お届け先で発生する段ボール等の梱包資材の削減に成功。あわせて、廃棄物の削減にも貢献しています。その結果、廃棄物への負荷が軽減し、輸送コストは、コスト削減へ。

■ 簡易梱包、リターナブル容器利用により、廃材削減が可能。■ 貸切率から積み合わせ共同輸送へ、CO<sub>2</sub>排出量を削減。

前日の18時までに仕舞、翌日の10時から納品時間指定が可能。

中ロットの貨物をJIT納品し、多頻度納品を効率的にサポート。

■ 運送品目・サイズ・仕舞時間・JIT納品日・集配時間・お届先・お届先住所・お届先電話番号・お届先住所・お届先電話番号・お届先住所・お届先電話番号

物流を変える! ボックス単位で運送もJIT納品。

**JITBOX** チャーター便

〒100-0001 東京都千代田区千代田  
ボックスチャーター株式会社  
www.j-bcc.co.jp ☎03-5401-0091 〒100-0001 東京都千代田区千代田

JITBOXチャーター便 エコロジーバージョン広告

## 廃棄物削減・リサイクルへの諸施策

ヤマトグループでは業務に伴って発生する廃棄物の削減に努めるとともに、蓄冷剤など多様な資材のリサイクルに取り組んでいます。

たとえばヤマト運輸(株)、ヤマトオートワークス(株)の連携で、クール宅急便用「蓄冷剤」を再生し、廃棄物削減とリサイクルを同時に遂げています。ヤマト運輸(株)では、クロネコメール便業務でペンスキャナ携帯端末に使用する乾電池(年間約200万本)のリサイクルを行うほか、回収した使用済みユニフォームを、自動車の内装部品(吸音材、緩衝材)に粉碎加工するリサイクルも進めています。このほか、宅急便の配達票・売上票は、トイレトペーパーに再生・商品化して販売する仕組みを作り、廃棄物ゼロを目標とした「ゼロエミッションリサイクル」達成に向けて取り組みを拡大しています。全国の事務所で古紙分別回収・リサイクルも行っています。ヤマトオートワークスの修理工場では、ロールボックスパレットなどの荷役機器を分解修理し、再生しています。

## 環境コミュニケーション・グリーン購入の諸施策

ヤマトグループでは、環境関連のイベントに参加し、情報発信・コミュニケーションに努める一方、資材購入で環境配慮商品を採用するグリーン購入を推進しています。

環境関連イベントの例に、ヤマト運輸(株)東京主管支店が実施したエコドライブ見学会があります。自動車メーカーの南アフリカ顧客招待企画の一環として行われました。デジタルタコメーターなどの機器に頼らない燃費向上への取り組みが、参加者から高評価を得ました。

グリーン購入では、ヤマト運輸(株)が、全社統一の文房具購買管理システムを運用して取り組みを推進しています。印刷物・包装資材も独自の環境マークによる認定制度を設けて、対応を強化して

います。2007年5月には、ヤマト運輸(株)社内で使用するコピー用紙を、環境対応紙「エコリングペーパー」に切り替えました。森林を守り、地球規模で循環型社会を目指す考えに基づき、育成継続の可能な植林木パルプ70%と古紙パルプ30%でできています。



エコドライブ見学会

時代の変化に沿って、ヤマトグループは柔軟にその姿を変え、その時々々の社会のニーズに即した事業展開を図っていきます。私たちは、どの時代にどういった事業に取り組もうとも、社会のために奉仕する事業者であり続けたいと考えています。CSR活動はそのための実践テーマであり、グループ全体で推進してまいります。そのなかで地球環境問題は今まさに緊急の課題であり、継続した取り組みが必要です。今までも、これからも、ヤマトグループは使命感と熱意を持って、環境問題に取り組んでまいります。

### ヤマト運輸(株)「第8回物流環境大賞」で物流環境保全活動賞を受賞

2007年5月、ヤマト運輸(株)は、社団法人日本物流団体連合会が主催する「第8回物流環境大賞」で物流環境保全活動賞を授与されました。この賞は2002年に創設され、物流部門における環境保全の推進や環境意識の高揚などを図り、物流の健全な発展に貢献した団体・企業または個人を表彰します。ヤマト運輸(株)が推進する「ヤマト運輸 地球温暖化防止目標」への熱心なアプローチと着実な目標達成が評価され、受賞につながりました。これを励みに、今後もグループ全体で環境保護活動の継続的向上に力を注ぎます。